

令和2年度 学校経営報告

都立青山高等学校長 小澤 哲郎

1 2年度の取組目標と方策

<p>(1) 学校経営</p> <p>ア 組織</p> <p>(ア) 教育職員</p> <p>全教職員が学校経営に参画するとともに、企画調整会議が中心となって課題の解決に当たる。</p> <ul style="list-style-type: none">・Webアンケート、学校ホームページ、公式Twitter等を活用し、エビデンスを重視した学校経営・学習から生活、特別活動等までにおける生徒・保護者に係る情報の迅速な共有・自己申告に学校経営計画の具現化のための目標設定・体罰や個人情報漏えい等の服務事故の防止・企画調整会議の活性化、各教科との連携が必要な局面で企画調整会議に教科主任が参加・担当部署に関らず、学校行事等の運営への積極的協力・校内研修、進路職員会議等による教育課題の共有化・教育改革を見据えた教育課題の解決・ITによる業務の効率化（テレワークモデル校事業、在宅でのオンライン授業）による職員の負担軽減と在校時間の可視化によるライフワークバランスの重視 <p>(イ) 行政職員</p> <p>課題ごとに、管理職と一体となってPT方式によりその解決に当たる。</p> <ul style="list-style-type: none">・固定観念や前例にとらわれない柔軟な発想に基づく学校経営を行う・適正な予算編成・執行と財務管理の徹底・施設・設備の安全維持に要する業務の着実な推進・進路部、広報部、生徒部の多様な業務を財務面から支援・ITによる業務の効率化による職員の負担軽減とライフワークバランスの重視 <p>イ 施設・設備組織</p> <p>施設・設備の安全確認・点検等を定期的に行うとともに、改修改善を要する施設・設備については増改修要望を利用して学校経営支援センター、都立学校教育部と連携して安全な教育環境の維持改善を図る。</p> <ul style="list-style-type: none">・体育館空調装置設置・暑さ対策のため普通教室・体育館・屋上プール等の窓の遮光フィルム貼付の範囲拡大・自習室や廊下ラウンジの学習環境の整備・小会議室の設置（被服室の一部）・トイレ洋式化の完了・男子・女子更衣室、トレーニングルーム、柔道場、剣道場の改修及びプール照明のLED化・グラウンド、テニスコート防球ネットの整備・テニスコート人工芝の修繕・第二講義室床の張り替え
<p>(2) 学習指導・進路指導</p> <p>ア 学習指導等</p> <p>教員の専門性の向上と、国公立大学進学に対応した学習指導の展開を目指す。</p> <ul style="list-style-type: none">・大学入試改革を見据えた自校作成問題の継続、校内学力テスト、定期考査の改善・長期休業期間中の講習を生徒の進路希望別の内容で実施

<ul style="list-style-type: none"> ・管理職が指定した教員の授業見学の実施、指導教諭による授業公開の活用、特別講習等の継続 ・英語教育推進校としての取組、ICT機器等を活用した新たな学習指導 ・オリンピック・パラリンピック教育の推進、不読率の低減等、喫緊の教育課題に対応した学習指導 ・オンライン英会話学習の継続、Tokyo Global Gateway（英語村）の活用
<p>イ 進路指導</p> <p>「進学指導」重点校としての役割を教職員が認識し、将来の社会貢献を見据えた指導をとおして、真に学びたい、学ぶべきことを発見させ、その学びを深めるために真に適した分野（学部学科）と大学を志望するよう「進学指導」を行っていく。進路部と各学年が連携して計画的に進路指導を行うとともに、生徒一人一人の実態を教職員全員で把握し、各教科等での適切な指導を継続する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・合格大学別の校内学力テスト・定期考査の分析 ・進路職員会議、ケース会議、進路研修会等を定期的に開催 ・長期休業期間中の講習を生徒の進路希望別の内容で実施 ・各学年等を対象とした文化講演等の実施 ・望ましい勤労観・職業観を育むキャリア教育の実施
<p>(3) 生徒の健全育成と心身の健康</p>
<p>ア 健全育成</p> <p>教育活動の全般をとおして、公共心や道徳心、規範意識や社会貢献の意識を育むとともに、他者を思い遣る人間性を醸成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あいさつ指導等の実施 ・美化活動等の実施 ・社会性の涵養に資する講話や指導の実施 ・いじめ防止対策の実施 ・自主自律の精神と民主主義を尊ぶ生徒会活動の指導 ・異校種の児童・生徒との交流活動 ・海外の生徒との交流 <p>イ 心身の健康</p> <p>学校保健計画に基づき、生徒の心身の健康づくりに資する取組を推進するとともに、個々の生徒に応じた指導・支援を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育推進委員会の定例化 ・カウンセリングや相談体制の強化 ・合理的配慮や支援を必要とする生徒への支援 ・スクールカウンセラーや特別支援教育コーディネーターを活用した相談体制の強化
<p>(4) 特別活動</p>
<p>ア 行事等</p> <p>学校行事のねらいを達成し、文化・芸術・運動等に生涯にわたり親しむ素地を培う。また、ホームルーム活動のねらいを達成するために、年間指導計画を立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進路実現に結びつく立志のための文化講演の実施 ・文化・芸術に親しむ行事の実施 ・防災に係る活動に親しむ行事の実施 ・体育活動に親しむ行事の実施 ・読書活動に親しむ行事の実施 ・進路実現に向けた意識の高揚

<ul style="list-style-type: none"> ・校内ビブリオバトルの継続実施 ・Tokyo Global Gateway（英語村）を活用した英語体験学習の検討
<p>イ 部活動</p> <p>部活動への加入を奨励し、文化活動や体育活動をとおして、生涯にわたり健康で文化的な生活を送るための基礎を培う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・部活動加入率 95%以上 ・公的発表会等や外部指導員等の配置に必要な予算措置 ・事故等の未然防止と万一の場合の適切かつ迅速な対応の徹底 ・顧問教諭や関係教諭、スクールカウンセラー等による面談等の実施 ・地域の小中学校、特別支援学校との部活動をとおしての生徒同士の交流活動の展開
<p>(5) 地域貢献</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・オリンピック・パラリンピック教育等をテーマに、地域の外国大使館等と英語による講演等の文化活動や交流活動の展開 ・地域の特別支援学校との障害者スポーツをとおしての交流活動の展開 ・祭礼等の地域行事への参加や地域の清掃活動などの実施 ・地域や地域の企業、関係機関と連携した宿泊防災訓練の実施会活動の充実 ・港区立青山小学校・港区立青山中学校・東京都立青山特別支援学校との連携 ・近隣団体等との連携の強化
<p>(6) 広報活動</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページを通じて、行事や部活動等の教育活動の情報発信を毎月更新 ・学校説明会、入試問題解説会等を年 8 回以上開催 ・近隣中学校等への出前広報活動の展開 ・中学生対象の体験授業（サマースクール）の実施 ・塾等への出前広報活動 ・デジタルサイネージやDVDを活用した学校PRの展開

2 成果と課題

<p>(1) 学校経営</p>
<p><成果></p> <p>ア 組織</p> <p>(ア) 教育職員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企画調整会議を中心として学校経営上の課題解決に取り組むことができた。また、各教科との連携が必要な局面で企画調整会議に教科主任が参加することで、情報共有を円滑に行えた。 ・学校評価アンケート等のIT化により、業務縮減を図るとともに、学習から生活、特別活動等までにおける生徒・保護者に係る情報を共有し、迅速に課題に対応することができた。 <p>(イ) 行政職員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体育館棟、男女更衣室、トレーニングルーム、剣道場、柔道場、プールの天井窓の改修工事を完了し、教育環境整備など進学実績の向上に資する企画提案などを行い、学校経営に参画することができた。 ・生徒の就学支援金等の需給状況、教職員の在校時間等の集計、施設設備の改善状況の三つの特命業務を、3人の主事に継続して分担させ、データを公表することにより、業務改善に直接結びつけるとともに、3人の主事の説明資料作成能力の向上を一定程度実現できた。 ・積立金や部費等の私費の適正な管理を行うことができた。
<p>イ 施設・設備組織</p>

・安全確認・点検等を定期的に行うとともに、改修改善を要する施設・設備について、所管の学校経営支援センターとの連絡・調整を行い、自習室の学習環境の充実・トイレ洋式化の推進、第二講義室の床の張り替え、体育館への大型扇風機設置・テニスコート整備等教育環境の整備を図ることができた。

<課題>

- ア ・学校経営方針を踏まえ、教育活動の一層の成果を上げるために、進学実績向上に資する専門性の一層の向上に努める。
- ・次期学習指導要領を見据えた教育課程の改善を進めグランドデザインの策定が完了した。新カリキュラムについても、3学年の文理別カリキュラムの策定まで完了することができ、新カリキュラムへの移行の基礎を固めることができた。
 - ・個々の生徒に応じた学習指導や相談の展開が、一定程度できたが、エビデンスからは、ホームルーム活動や面談の実施の成果に課題があるクラス担任が22クラス中4人いる。昨年度は5人いたことを考えると課題はわずかながら減少している。
- イ ・法務監察課による業務監査において、指摘事項2件、注意事項3件の計5件の指摘をうけるに至った。主事3人が全員新採で、年度ごとに新しい業務を担当させているため、誤った事務処理が正されないまま、放置されていたことが原因である。また、電子決裁にも消極的で、令和2年11月期は、電子決済率16%台と、都立高校で最下位になってしまった。
- ・グラウンド整備が進んでいないので、人工芝生化と外構整備に取り組んでいく。
 - ・臨時休業期間中に体育館の空調設備を導入することができた。盛夏においては、冷房に限界があり、また、感染症予防対策上、定期的に換気を行う必要があることから、窓ガラスの遮熱フィルムの貼付を継続していく。
 - ・感染症予防のため、水道の推薦をコック式、または、センサー式に取り換えることができるよう、教育庁への要望を行う。
 - ・トイレの悪臭対策を早急に行う必要がある。

(2) 学習指導・進路指導

<成果>

ア 学習指導等

- ・年間指導計画の改善を行い、単元ごとの到達目標を設定、教科会での進捗状況の確認・調整も行った。
- ・Webアンケートを活用した生徒による授業評価を年2回実施し、その結果を公表して、教員が指導の工夫・改善を図った。
- ・校長が指名する教員の相互授業見学を年2回実施するとともに、アクティブラーニングの公開授業を実施し、授業改善を図った。
- ・英語教育推進校として、オンライン英会話を7回、今年度は1、2年生による、Tokyo Global Gateway（英語村）の活用などを行い、実践的な英語力の一層の向上に取り組んだ。その結果GTECのスコアは年々伸びている。
- ・オンライン授業、オンライン講習、オンライン式典など、ICTの活用を取り入れることができ、いわば、ピンチをチャンスに変えることができた。来年度入学生から1人1台のタブレットを購入してもらい、定期的なオンライン授業等の実施に加え、BYODによる授業での活用を開始していく。

イ 進路指導

- ・東京大学現役合格者を3名、一橋大学11名、東京工業大学7名、信州大学医学部医学科1名、防衛医科大学1名と難関国公立大学現役合格者を23名輩出し、進学指導重点校としての教育委員会の目標を達成することができた。国公立の医学部合格者を2年連続で出せたことや、旧

<p>帝大を含めた合格者を39名出せた実績は大きい。学校経営計画どおり、40名の大台に乗せることで、さらなる飛躍の足掛かりとしたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国公立大学現役合格者を103名輩出し、昨年度に続き、進学実績の向上を図ることができた。 ・進路全体計画を策定し、校内学力テスト・外部模試・講習補習や面談等着実な実施を図った。特に、校内学力テストや定期考査においては、大学入学共通テストを見据えた新傾向の問題、思考力・判断力・表現力を問う記述式の問題、初見の問題を、主要教科のすべて実現することができた。同時に、教員の指導力の向上（作問力は指導力）につなげることができた。 ・進路職員会議を年6回実施し、模擬試験の分析や個に応じた指導方針を検討した。 ・模擬試験の結果を踏まえ、生徒の苦手とする分野を把握した指導の重点化を図るとともに、校長が生徒を激励する訓話を行うなどして生徒の学習意欲を高めた。
<p><課題></p> <p>ア 学習指導等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員が受験指導と「進学指導」の違いを十分に認識しているとは言えない状況にある。真の進学指導重点校としての地位を固めるには、「進学指導」の意味を認識し、学校経営計画に基づいて日々実践していくようにベクトルを一方向に集中させていくことが課題である。 ・高等学校学習指導要領及び高大接続改革に対応したカリキュラムを固めることができた。今後は、文理別や必修履修・選択履修等を想定した、実際の時間割の策定に必要な調整や運用の仕方を検討していく。 ・授業改善と個々の生徒に対応した補習・講習の一層の充実 ・IT化した授業評価の結果を分析し、成果の挙がっている指導方法等を教科・学年で共有 <p>イ 進路指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・模擬試験ごとの志望者リストの作成と希望に応じた講習の実施 ・合格大学別の校内学力テスト・定期考査の分析 ・長期休業期間中の講習を生徒の進路希望別の内容で実施 ・受験指導と進学指導の違いを明確に意識した生徒指導が行えるよう、教職員への研修と目的意識の共有を図っていく。
<p>(3) 生徒の健全育成と心身の健康</p>
<p><成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・校長の朝の立哨指導をはじめ、教員が挨拶指導を率先垂範し、礼節指導の充実を図った。生徒の心身の健康状態、出席の状況を把握するために欠かせない、重要な指導であることを、教職員にさらに強く意識させることで、一層の成果向上を図れるものとする。 ・Webアンケートによるいじめ等に関する調査を年3回実施し、未然防止・早期発見に努め、自他の生命や人権を尊重する豊かな心や態度の育成を図ることができた。 ・スクールカウンセラーを活用したいじめ対策委員会や青山特別支援学校からのコーディネーターと連携した特別支援委員会を開催し、支援を必要とする生徒の情報を管理・共有し、指導・育成に役立て、継続的に生徒・保護者を支援した。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本的な生活習慣の一層の定着 ・生徒の心身の健康の増進 ・相談体制の一層の充実と生徒情報の共有 ・欠席の多い生徒へのスクールカウンセラー等を活用したメンタルケアの一層の支援

<p>(4) 特別活動</p>
<p><成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動の加入率は、9月、12月の両時点で95%と、多くの生徒が部活動に熱心に取り組んだ。 ・ラグビー部は、2年連続で東京都のベスト8に進出。 ・青山フィルハーモニー管弦楽団は文化部推進校として活躍（定期演奏会は中止となったが、杉並公会堂で、生徒、OBのみで公開練習を実施、都立青山特別支援学校との交流を動画により実施） ・体育祭は中止。外苑祭は、学年別に動画作成など「学習成果発表会」という新しい形で実施 ・生徒に幅広い見識や教養を身に付けさせるため、各学年を対象に文化講演を開催した。徳増浩司氏（前ラグビーワールドカップ組織委員会）、スチュアート・ミラー氏（Google マーケティング部長）を招いて講演を行い、将来の社会貢献を見据えて、どんな学びが必要か、その学びを深めるために最適の進学先はどこか、という「進学指導」の果たすべき役割の一端を担わせることができた。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・東京都大会等における実績の向上 ・怪我の未然防止策の徹底や事故が起きた際の迅速かつ適切な対応
<p>(5) 地域貢献</p>
<p><成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・熊野神社祭礼、ボッサ青山、青山祭り等の地域連携活動は、残念ながらコロナ禍のためすべて中止になったが、地元の日本オラクルとの教育プログラム開発に着手することができ、新たな形での地域連携の糸口とすることができた。 ・地元の小学校での「絵本読み聞かせ」、地元の特別支援学校との「音楽交流会」については、動画配信や手作り楽器の寄贈により、新しい形で実施することができた。地元の中学校とは、参加人数を絞り、感染症予防対策を講じたうえで、例年どおり、体験授業を実施することができた。こうした交流をとおして積極的に社会に参加・貢献しようとする態度や共生社会への参加意欲を育成することができた。 ・オリンピック・パラリンピック2020東京大会を控え、ストリート装飾を港区立青山小学校・港区立青山中学校・東京都立青山特別支援学校と連携して、継続実施とした。 ・地域の諸団体（日本青年館、TEPIA、明治神宮外苑、日本スポーツ振興センター、霞ヶ丘自治会等、青山商店会、神宮前二丁目商店会、日本オラクル）との連携協定を継続・新規で締結し、今後の連携強化の道筋をつけることができた。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域施設と連携した行事の一層の取組 ・地域の外国大使館と連携したパートナーシップ校等の形態による海外の高等学校との緩やかな推進事業（ニュージーランド ハットバレー・ハイスクールとの連携協定を締結） ・地域の諸団体と連携した、生徒の志を育てる教育プログラムの開発と運用
<p>(6) 広報活動</p>
<p><成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校説明会、授業公開、入試問題解説会を開催し、広報活動の充実を図った。 ・ホームページやTwitter、YouTube「青高チャンネル」等を活用して、教育活動の特色等を発信した。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校案内DVDや過去問題集等の広報予算の効率化及び縮減 ・デジタルサイネージを活用した広報活動の一層の充実

3 今年度の数値目標

		数値目標	2年度実績
1	難関国立大・国公立医大現役合格者	20	23人*1
2	難関国立大学（旧帝大含む）現役合格者	38	39人*2
3	国公立大学現役合格者	78	106人
4	難関私立大学（早慶上理）現役合格者	100	214人
5	外苑祭来校者	5,000	中止 0人
6	学校説明会参加者（年3回）	2,000	2,200人
	学校紹介動画	当初予定なし	6,439回
	学校説明動画		3,156回
	入試問題解説動画		4,350回
	部活動紹介動画		1,525回
7	ホームページ更新回数	200	300回程度

*1 進学指導重点校指定以来、最高実績

*2 同上